

訓 示

平成二十一年度の年度当初にあたり、職員の皆さんに一言ごあいさつをいたします。外には眩しい陽光とともに、温かで柔らかい風が感じられ、まさに四月は開けゆく月であります。先ほど、百三十六名の皆さんに辞令の交付を行いました。その内訳は、昇任昇格六十一名、配置換え五十九名、交流派遣など五名、新規採用十一名であります。先ず、本日付で韮崎市職員として採用されました皆さん、おめでとうございます。皆さんは高い競争率の中、優秀な成績で採用されました。期待を裏切らないように、公僕として業務に励んでいただきたいと思います。さて、この度の人事異動につきまして、その基本的な考え方ではありますが、施策や事業に対応した職員の配置ということを中心に、本人の希望や意見等に配慮しつつ、人事ヒアリング等を踏まえ、中堅以下の職員には、ジョブローテーション等による能力開発を念頭に置いた異動を、また、中堅以上の職員には、個性と能力を十分発揮できるよう、適材適所の異動を行ったところではありますが、全員が満足する結果ではないことも承知しています。しかしながら、個人は組織あつての個人であります。組織として、よりよく機能することを、何より第一義に考えたところでもありますので、ご理解願いたいと思います。また、人材育成の観点から、県などとの人事交流及び研修派遣をさらに拡大します。山梨県中北建設事務所等への派遣を継続するとともに、新たに山梨県との人事交流及び研修派遣を行います。これらの人事交流が、職員の意識改革の契機となり、使命感が強く皆に誇れる韮崎市職員としての資質向上につながると信じております。本日からは、この新しい体制で事務事業に臨んでいただくこととなります。皆さん、新しい職場に対する不安もあろうかと思いますが、この異動を契機に認識を新たにして、新しい分野に臆することなく積極的に挑戦していただきたいと思います。次に、新規採用職員の皆さんに申し述べます。私は、皆さんに辞令を渡す時、一人ひとりの目をしっかりと見ておりました。それぞれの目には、韮崎市の職員として頑張るんだという、決意の光が放たれ、心強く感じました。就職先として誰が勧めた市役所でもありません。自らが受験申込書を書き、そして本市へ奉職を求めたわけでありまして。今日の目の輝き、そして、初心を忘れることなく、今日からの公務員生活に臨んでください。この心構えについて、新規採用職員をはじめ若手の職員の皆さんにいくつかを申し上げます。まず、「自己認識力」を持っていただきたい。これは、自分の性格や能力を今までの人生から客観的にとらえることであります。昨今、この自己認識力に加えて、他人の気持ちを察する能力が著しく劣化している人が目立つように感じます。社会というものは、人と協働することで成り立っています。少数の気のあった仲間とだけつきあい、アルバイト先でもマニュアル化された仕事だけを仕事だと思い、辞められては困るので大事にされる。それを常識だと勘違いしてはいませんか。成長する共通の資質とは何か。簡単な

言葉で言うと「素直であること」であります。素直に、自分の弱点を見つめられず、伸び悩む
すが
人が多いのです。人の話をよく聞き、過去の成功にも 継らない。謙虚に、少しでも自分を伸
ばそうと生きることが大切なことであると思います。二つ目には、上司や同僚への報告・連絡・
相談、いわゆる「報・連・相」を確実に行ってください。「こんな小さなことぐらい」という
思いが、また、自己の勝手な判断が大きな問題に発展してしまうのも、そこに原因があると思
います。心配なことや困ったことは、身近にいる上司や同僚に相談してください。三つ目は、
甘えは通用しない、ということであります。「まあ、いいか」、「まあまあ、なあなあ」は、こ
の役所生活では通用しません。市民の目には、新人であろうと経験を積んだベテラン職員であ
ろうと、同じ市役所職員の一人にしか映りません。誰か一人の不祥事が、組織全体の信頼を失
うことになりますので、法を守ることは当然、電話や窓口に来られる市民の皆さんに対し、態
度や言葉遣いなど、社会人としての自覚を求めます。職員として責任ある行動をとってくださ
い。慣れないこともあろうかと思ひます、健康管理をしっかりし、市民のために精一杯尽くし
てください。そして、一日も早く独り立ちできるように頑張っていたいただきたいと思ひます。今
後の仕事に大いに期待しています。さて、一般職員のみなさんも、平成二十一年度、心を新た
に「よしやるぞ」という心意気をお持ちいただいたと思ひます。人事は悲喜こもごもですが、
人生は平たく言いますと下駄を履くまでわからないと言われます。結果が出ないときもありま
すが、人生の終焉を迎え自分の人生を振り返った時に、いい評価が出来るようにしていただき
たい。悲喜こもごもで喜びも悲しみもありますが、長いスパンで考えていただき、それをみな
さんの人生の糧として活かしていただきたいと思ひます。行政のプロとして、また、市の職員
としての自覚を十分に持ちながら、各々の部署で一步もひるむことなく問題解決のために邁進
していただくことをお願いいたします。近年の変化の激しい、また厳しい時代にこそ、職員の
意識や能力のレベルアップが求められます。その目指すべき職員といたしまして、本市人材育
成 基本方針から抜粋しますと、先ず、市民の立場で考え、市民とともにまちづくりに取り組
む職員、第二に、高いコスト意識を持ち、効果的で効率的な業務実施に努める職員、第三に、
チャレンジ精神を持ち、自ら考え、実行する職員、最後に、常に学習意欲を持ち、積極的に能
力開発に努める職員であります。皆さんは、自分自身を追い込んで努力し、失敗を恐れずに前
に進むことを考えてください。そのためには、自己啓発を忘れずに一人ひとり日々の努力の積
み重ねが大事です。よろしく申し上げます。また、現代は、変化の時代でもあります。課長を
はじめとする上司の皆さん、自分が育てられてきた常識や価値観を一度捨てて、部下をどう育
成して、組織のパフォーマンスを上げるかということ、冷静に考えてください。それには、
価値観を変えようとせず、自らの行動を変えればよいのです。自分の役割は部下を育てて、結

果として組織の成果を上げることだという基本にかえれば、素直に行動を変えていくことができるはずですが。時には、部下たちのほうがより優れた考えを持っていること、上司に見えないものが、部下には見えていることを、受け入れ認識してください。そのためには、積極的なコミュニケーションが必要です。コミュニケーションで一番大事なことは、相手をしっかり理解して、その意見や主張を聞いた上で、アドバイスをすることです。部下を持ったら、勇気を持って自分の仕事を明け渡し、自らは未知なる上位の仕事にチャレンジしてください。自
ちゅうちょ

分で行った方が早いと 躊躇 しないてください。育てることが皆さんの仕事なのです。今年度は、新しい長期総合計画がスタートする年でもあります。「地域に住む全ての人が夢を持ち続け、その実現に感動できるまちづくり」をキャッチフレーズとしております。私は、子どもからお年寄りまでが「ここに生まれて良かった」、「ここに住んで良かった」と思ってもらえるような蕪崎市を造っていきたくと、心から強く思っております。そのためには、職員の皆さんが、「市民の為に何をすべきなのか」を常に考え、心をついに一つにして、山積する課題に向かって果敢に立ち向かっていただきたいのです。ご承知のように、先の市議会定例会の所信表明において、今年度の施政方針と私の思いを述べさせていただいておりますので、その内容にはあえて触れませんが、ホームページにも掲載しておりますので、是非ご一読いただきたいと思えます。全てに難しく厳しい時代ではありますが、それを切り開いていくのは皆さん方の今日までの経験なり知識がより大事ですし、時には、頭の切り替えが必要であります。三万二千人の市民が皆さんに大きな期待を寄せていることは事実であります。その期待を裏切らない、そして不信の念を抱かせないような職員であり自治体でなければならないと思えます。年度初めにあたりましてお祝いや、小言になったかもわかりませんが意をお汲み取りいただき、訓示とさせていただきます。今年一年、力を合わせてともに頑張りましょう。